





# 審査結果報告書

2022 年 2 月 1 日

主 査 氏 名 河内 康雄 

副 査 氏 名 宮崎 浩二  

副 査 氏 名 堺 隆一 

副 査 氏 名 吉田 中 

1. 申請者氏名 : DM18021 羽山 慧以

2. 論文テーマ :

Bone marrow ring sideroblasts in hematological diseases: an analysis of consecutive 1,300 samples in a single institution.  
(血液疾患における骨髓環状鉄芽球の解析)

3. 論文審査結果 : 骨髓異形成症候群(MDS)の中でも環状鉄芽球(RS)を伴う病型(MDS-RS)はLuspatercept が有効で予後良好である。従ってMDS-RSを正確に診断することは重要である。診断には骨髓での鉄染色が不可欠であるが鉄染色は日常的に行われる検査でなく、本邦でのMDS-RSの発症頻度は不正確である。この臨床上の問題に気づいていた申請者は北里大学病院が鉄染色を日常的に行っていることを利用して、1) 北里大学病院でのMDS-RSの発症頻度とRSの存在頻度、2) MDS以外の造血器疾患における骨髓RSの存在頻度について解析を行った。研究方法は、患者選択基準、造血器疾患診断、病理学的観察のすべてにおいて申請者が考案し適切に計画、施行されている。結果は、1) 当院はMDS-RSの頻度が欧米からの報告に類似していること、2) RSの存在がより異形成の高度で予後不良なMDS、AMLで認められること、3) 追跡調査で骨髓異形成を伴う疾患群では化学療法の有無にかかわらずRS増加が、また異形成を伴わない場合は化学療法後にRS増加を認めることを示した。これらの結果から、1) MDS-RSの診断に鉄染色が重要であること、2) 異形成高度な疾患ほどRSを伴うこと、3) 臨床的意義付けが十分検討されていなかったRSについて骨髓異形成を示す所見である、などこれまでの疑問点に対して一定見解を示した。今後の方針について申請者は遺伝子検査の拡充、大規模検討の計画などを考案しておりすでに着手している項目もある。申請者による発表後、副査および主査から広範な質問が出されたが、おおむね適切に回答し申請者の学識の高さを示した。副査および主査は学位論文の内容に加えて質疑応答の適確さから医学博士の学位に相応しいと判断した